

令和4年（2022年）10月10日 発行

1～9…特集 まちの賑わい、明日へつなぐ。
10…インフルエンザ予防接種 11…テレワーク施設をご紹介
13…施設ご利用ガイド 14…ひまわり 15…11月の相談

「指定ごみ袋」欠品で臨時措置▶10/28まで実施中（P11）

発行／名張市 秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎ 0595-63-7402 FAX 0595-64-2560 ✉ pr@city.nabari.mie.jp



地域内外から新たな出会いを生んでいるテレワーク施設「FLAT BASE（フラットベース）」



かつて空き家だった場所に人が集まる



町家の雰囲気を残す落ち着いた空間

特集

明日へつなぐ。まちの賑わい、

昭和40年代以降、宅地開発により人口が急増した名張市。今後、高齢化や人口減少が進む中、地域の担い手が減少し、空き家が増えていく見込みです。まちの賑わいを失ってしまわないように、今、何ができるのか……。今号は、人とつながりながら、地域活性化に取り組んでいる皆さんをご紹介します。

「名張のまちなかに、「ふらっと」人が集える居場所が誕生

名張のまちなかにある、空き家を再生したテレワーク施設「FLAT BASE（フラットベース）」。「ふらっと」人が集まって、想いと縁がつながる場所。アットホームさが自慢です」と、管理者の北森仁美さん。イベントや教室、打合せなど、用途を限定しない貸しスペースとしても活用され、3月のオープン以来、さまざまな人の出会いを生んでいます。7月のある日、兵庫県在住の新婚夫婦がやってきました。曽爾高原で結婚記念の撮影をするための「着替えスペース」として使用するということです。「事前に相談があり、想定外の利用で驚きま

したが、できる限りのことはしたい」。そう考えた北森さんは、布を縫い合わせて着替えスペースを作ったり、近所の床屋から大きな鏡を借りてきたり……。「とても喜んでくれて、今度ゆつくりと名張を訪れたいと言ってくれました。少しずつですが、こうした縁を積み重ねていきたい」と北森さん。実は、この施設は以前、北森さんの義母が住んでいて、「この家が賑やかになっていくこともうれし」と笑顔をみせてくれました。

人口が減っていく中、地域の内外に多様なつながりを

「生まれ育った名張で子育てをしたいと思う、Uターンしました。でも、まちに人がいない。空き家が増えている。建築士としての経

験を生かしながら、子どものころのような賑やかなまちを取り戻したいと思いました」。そう話すのは、空き家を活用したまちづくりを進める一般社団法人「つなぐ」代表理事の野山直人さん。法人名には「まちと建物、人を未来へつなぐたい」という思いが込められています。空き家を地域に開かれた場にしたいと考えていた北森さんと出会い、共同で「フラットベース」を整備しました。

「人口が減っていく分、人と人がもっとつながっていく必要があるのでは。誰かに出会って、新しいことが始まる。そんなことがこの場所できりつつあります」と野山さん。空き家だった施設がいま、まちの賑わい創出に向けて、新たな道を歩み出しました。

